

内海湾

壱岐の東側にある内海湾は、古くから対馬や朝鮮半島、九州との間を行き来する商人が、中心集落である原の辻に近づく前に船を停泊させた場所である。湾に到着した船は、浅い幡鉾川を遡上できる小型の船に荷物を積み替え、原の辻の船着き場まで 1.5 キロかけて川を遡上する。原の辻は紀元前 200 年頃から 350 年頃まで壱岐国の王都として栄えたところである。

現在の湾で最も特徴的な場所である小島神社は海や漁業にまつわる神々を祀る神域である。干潮時に海から現れる砂州を伝って行くことができる小島にある。満潮時は伝馬船で島を一周することができる。